

2008 年度

科目名 心理学実験 B	対象学科・学年 人間人社 2 回生	担当者 中尾 将大
授業テーマ 実験を通じて科学的なものの見方を身につける。		
授業の概要と目標 心理学の基礎実験を通じて、実験の方法、実施、データのまとめ方、処理方法を学ぶ。ヒトの精神活動を科学的に捉え、データからわかることを客観的に記述する術を身につける。教科書に載っているような行動の変容が実際に見られるのか。受講者自身の眼で確かめて欲しい。		
評価方法 出席点および各課題について提出するレポート、授業に対する姿勢など、総合的に評価します。		
テキスト 内容に合わせてプリントを配布します。	著者	出版社
参考書 実験とテスト＝心理学の基礎（実習編） 実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）	著者 心理実験指導研究会 心理実験指導研究会	出版社 培風館 培風館
授業スケジュール・内容 授業スケジュール・内容 1. 3～4 名をひとつの班とする。班ごとに各実験課題に取り組み、各自でレポートを提出し、結果を発表する。 2. 1 つの実験課題は、3 週間に 1 つの割合で実験を行い、レポートを作成し、提出する(4 週目)する。 1 週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など 2 週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導 3 週目 結果分析、レポートへのまとめの指導 4 週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など (同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する) 3. 各実験課題は以下のとおりである。 (1) 概念学習 概念がどのように形成されていくのか、連合説と仮説検証説に立った仮説を実験を通して検討する。 (2) 対連合学習 対連合の的中予言法を用いて、有意味語と無意味語とに新しい連合を形成させる。その過程が漸増的か否かを検討する。 (3) ストループ効果（認知的葛藤） サーストンの SCWIT を参考に刺激カードを用意し、カードに対する反応時間から認知的葛藤の有無を調べる。 (4) 要求水準 要求水準が作業の成功・失敗、満足度によってどのように変動するのかを検討する。 要求水準を測定する作業材料はそれぞれに工夫する。 【受講の条件】 1 回生担当の「統計学 A および B」また「心理学研究法」を履修済みであること。 もしくはこれらの科目を同時に受講していること。 【人数制限】 実験器具の数に限りがあるため、受講定員を 40 名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員を超える場合は、抽選します。 <u>受講希望者は、心理学実験 A の第 1 回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。1 回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録はできません。後期の授業ですが、前期に抽選します。</u>		